

第3節 生物の現状把握

1. 生物の現状

1.1 草津川の特徴



本川（天井川・JRとの立体交差）

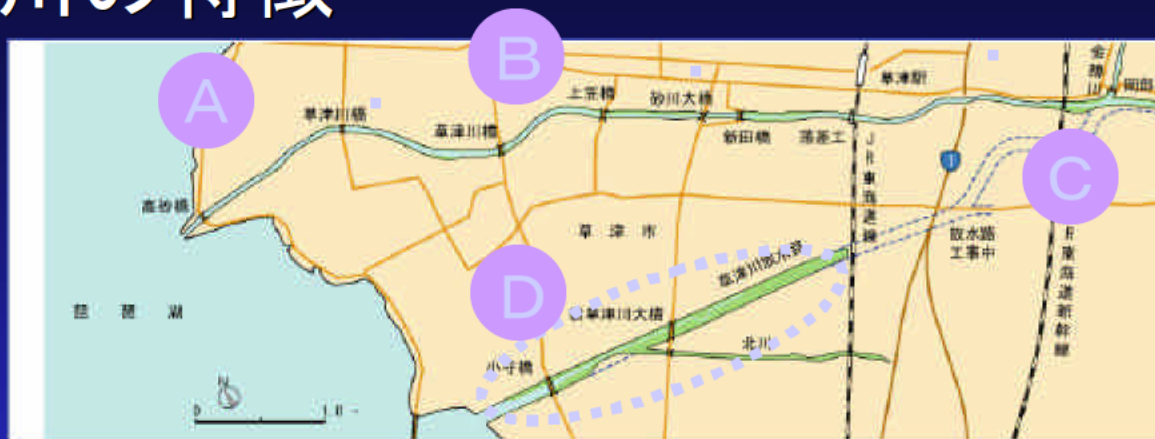


本川および放水路



1. 生物の現状

1.1 草津川の特徴



A

河口付近



- ・琵琶湖の入江状
- ・川幅狭いが、水際に湿生草地
- ・河床は砂、泥

B

砂川大橋付近



- ・河道は直線的
- ・湿生草地少なく、人工的要素強い
- ・河床は砂

C

落差工上流



- ・比較的川幅広く、寄り州が成立
- ・湿生草地が成立
- ・河床は砂

D

草津川放水路



- ・工事のため、裸地が大部分
- ・一部に植生成立
- ・河床は砂、泥

1. 生物の現状

1.3 底生動物

- ・ 全体的にミミズ類やユスリカ類、コカゲロウ類が多い



A 河口付近

- ・ マシジミ
ミミズ類
トンボ類
ユスリカ類など

B 砂川大橋付近

- ・ モノアラガイ
コカゲロウ類
などがみられるが、
種類数は貧弱

C 落差工上流

- ・ ヒメタニシ
モノアラガイ
コカゲロウ類
ユスリカ類など

・ 特定種

- ゲンジボタル (幼虫)



1. 生物の現状

1.4 植物



A 河口付近

- ・水際に小規模な湿生群落
- ・ツルヨシ、ガマ、マコモ等
- ・堤防付近は草地、竹林
- ・メヒシバ、アレチウリ、竹林等

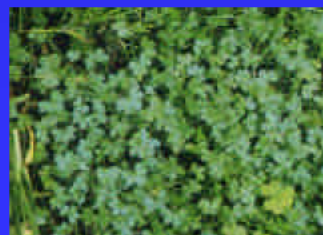
・ 特定種



カワヂシャ

B 砂川大橋付近

- ・河道内の植生は貧弱
- ・一部オオクサキビ、ナギタデ等
- ・堤防は乾生草地
- ・メヒシバ、クズ、セイヤカアワダチソウ等



ヒメチドメ

C 落差工上流

- ・川幅は比較的広く、河道内に湿生草地
- ・ツルヨシ、ミゾソバ等
- ・低水路護岸（蛇籠）上に土砂堆積し、植生化
- ・オオオナモミ、カナムグラ等
- ・高水敷上は乾生草地が成立

カラムシ、メヒシ



キンガヤツリ

D 草津川放水路

- ・工事のため、大部分が裸地
- ・造成後の低水路に植生が徐々に侵入
- ・オオクサキビ、アマガズキンバイ等
- ・一部水際に抽水植物（ツルヨシ、マコモ）

1. 生物の現状

1.5 鳥類



A 河口付近

- ・ 農耕地に囲まれた河口部
→カモ類
カモメ類
チドリ類
タゲリ

B 砂川大橋付近

C 落差工上流

- ・ 都市部を貫流する区間
→キジバト
ムクドリ
スズメ
- ・ 堤防沿いの植栽木
→ヒヨドリ
シジュウカラ

D 草津川放水路

- ・ 広い開放水面の存在
→カンムリカイツブリ
カモ類
オオバン
- ・ 水際の湿生草地
→オオヨシキリ
オオジュリン

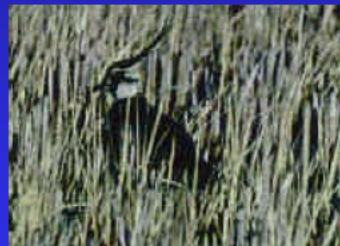
1. 生物の現状

1.5 鳥類

・ 特定種



● カンムリカイツブリ



● タゲリ



● ハイタカ



● チュウサギ



● オオタカ



● チョウゲンボウ

1. 生物の現状

1.6 昆虫

- ・ 草地に依存する種が多く、コウチュウ目、チョウ目、カメムシ目が多い



A 河口付近

- ・ 流量が少ないため、止水性のトンボ類が生息
- ・ マルカメムシ等の草地性の種が多く、コムラサキなどヤナギに依存する種などが生息

B 砂川大橋付近

C 落差工上流

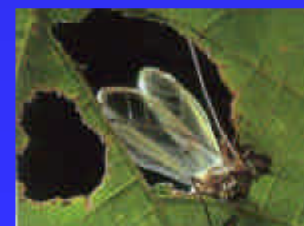
- ・ 流量が少ないため、止水性のトンボ類が生息
- ・ 草地の種のほか、庭木や植栽木に依存する種がみられる

・ 特定種

● カンタン



● セグロアシナガバチ



1. 生物の現状

1.7 小動物(ほ乳類)

■ ほ乳類

- ・ **アブラコウモリ**
河川内に広く分布
- ・ **コウベモグラ**
高水敷の草地、竹林に生息
- ・ **ネズミ類**
(ハツカネズミ、アカネズミ、カヤネズミ)
高茎草地を中心に広く生息
- ・ **イタチ属の一種**
河川内に広く生息
- ・ **タヌキ、キツネ**
本川下流の竹林付近を中心に生息



アブラコウモリ



コウベモグラ



ハツカネズミ



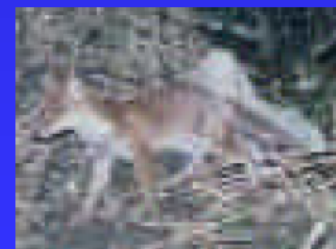
アカネズミ



カヤネズミ



タヌキ



キツネ

1. 生物の現状

1.7 小動物(両生類)

■ 両生類

- ・ アマガエル
水辺の草地、高木林、裸地、竹林等に広く分布
- ・ ニホンアカガエル
堤防天端の草地にて確認。
- ・ トノサマガエル
水辺の草地に広く分布
- ・ ウシガエル
水域を中心に広く分布



アマガエル



ニホンアカガエル



トノサマガエル



ウシガエル

1. 生物の現状

1.7 小動物(は虫類)

■ は虫類

- ・ カメ類 (イシガメ、クサガメ、ミシシippアカミミガメ)
水域や水際の草地、裸地に生息
- ・ ヘビ類 (シマヘビ、アオダイショウ)
草地や畑地、水際等に生息
- ・ カナヘビ
草地を中心に広く分布



イシガメ



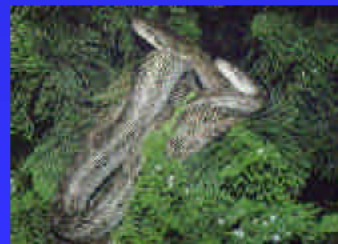
クサガメ



ミシシippアカミミガメ



シマヘビ



アオダイショウ



カナヘビ

2. 生息環境の現状

2.1 河川環境の変化

現在の草津川は、平成14年に草津川放水路に付け替えられます。



生まれ変わる草津川放水路

2. 生息環境の現状

2.2 生息環境の現状



A 河口付近

琵琶湖の入江状を呈し、水際にツルヨシなど湿生草がみられます。堤防には乾生草地のほか竹林もみられます。

B 砂川大橋付近

低水路は直線的なコンクリート護岸です。川幅は狭く、高水敷は乾生草本や植栽木が生育しています。

C 落差工上流

川幅は広く、中洲がみられます。低水路には蛇籠が設置され、堆積した土砂上に植生がみられません。

D 草津川放水路

河口部は琵琶湖の入江状を呈し、小規模なツルヨシ群落などもみられます。